

## 対面で行う漢文授業について

人文社会科学系国語教育講座・太田亨

### 1、目的

授業は3回生が対象である。形態は全て対面で行った。前年度は、コロナ禍であったため、Moodleを利用して、非同期型の遠隔授業であった。今回の報告書では、対面授業と遠隔非同期型の授業との比較し、それぞれの長所と短所を述べたい。

### 2、授業の概要

『論語』は小・中・高で取り上げられる教材である。将来教育現場できちんと教材研究ができるように、孔子の実像と『論語』の実態を理解することが本授業の目的である。

高等学校までに学習した『論語』の章は、道徳的な要素が強く、学生は孔子を道徳修養者としてとらえていることが多い。そのため、授業ではなるべく多くの『論語』の章に触れ、孔子が本来は政治家であること、『論語』は孔子が弟子に政治家の資質について説いたものであることを学習する。

各回の概要は次の通りである。

- 第1回：『論語』の概説—ガイダンスを兼ねて
- 第2回：『論語』における君子（孔子に対して）
- 第3回：『論語』における君子（孔子自身の評価）
- 第4回：孔子と政治（道の存在）
- 第5回：孔子と政治（政治の空間）
- 第6回：政治における孔子
- 第7回：孔子と弟子Ⅰ—一子路
- 第8回：孔子と弟子Ⅱ—一子貢
- 第9回：孔子と弟子Ⅲ—顔回
- 第10回：弟子に対する教育
- 第11回：これまでの復習Ⅰ（教材研究の方法）
- 第12回：これまでの復習Ⅱ（教材研究の方法）
- 第13回：孔子と仁
- 第14回：孔子と礼
- 第15回：孔子と仕官

それぞれの回において、『論語』から関連する章を取り上げ、学生に示し、章から読みとれる内容を考えさせるようにした。できればグループで話し合いをさせたかったが、コロナの感染予防を意識し、一人で考えさせるようにした。また、課題として次回の授業に関係する問題を出し、次の授業の始めにその回答を書かせるようにした。

実際の授業であるが、学生は始めのうち、配付した資料を読解するのに、字面を追うだけで何を読み取ることができるか分からない様子であった。授業が進むにつれ、最初に課題で回答するテーマを意識し、配付される資料から率先して読み取り、教員の意図する答えを導き出そうとするようになっていった。

前年度の遠隔非同期型の授業では、課題に対する自分の考えを導き出すことに苦勞し、どうしてもインターネットに流れている孔子像に振り回され、そのままコピーして提出するが多かった。

前年度の授業と今年度の対面授業を比較すると、教師の意図するところがどれほど学生に伝わっているか見て取ることができるので、授業を進める際の計画が立てやすかった。また紙面に解説を書く場合と違って、細かな表現を口頭で伝えることができるので、学生との意思疎通を十分に取ることができたと考えている。

学生がどのように考えていたかについては、学生のアンケートから読み取りたい。一連の授業後にアンケートを行った。

### 3、学生アンケート及び結果

まずは授業の概要について5項目のアンケートを選択形式で行い、その後、授業の理解・感想・意見について、2項目のアンケートを記述式で行った。以下、その項目と結果である。回答者は24名である。2～5について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。6・7に関しては全員が非常に詳しく記述していたため、数名の回答のみを取り上げる。

1 シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。  
（あった：24名 なかった：0名）

2 授業はシラバス通り行われましたか。（行われた：24名 行われなかった：0名）

3 授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：10名 まあまあできた：10名 ふつう4名）

4 課題提出の際、授業外の学習をどれほどしましたか（毎回の課題と字数の多い大課題3題に対して）。（かなりした：12名 まあまあした：10

名 ふつう：2名)

5 授業を通して、孔子と『論語』に対する理解は深まりましたか。(かなり深まった：15名 まあ深まった：9名 ふつう：0名)

6 孔子に対する考え方は授業前と授業後でどのように変わりましたか。(弟子たち・孔子と弟子の関係についてでも構いません)

・2回生の時に受講した「中国古典概説」で孔子が政治家であることを学習しましたが、授業前は、やはり道德家のイメージが強かった。授業後は、政治と道德の関係が良く分かり、道德が政治そのものであると考えるようになりました。

・「中国古典概説」で孔子は政治家だと言うことは分かっていたが、これほどまでに政治について述べているとは思わなかった。

・「中国古典概説」ではピンとこなかったが、孔子が苦勞人であることを知っていた。授業を受けると、孔子がどうして苦勞したのか、どれほど徳治を考えていたのかが分かった。現実的な政治家には孔子の考えは受け入れられないだろうと思った。

・授業を受けていて気になったので、『論語』の文庫本を買いました。教科書に取り上げられていない箇所、政治について書かれた章がどれほど多いか分かりました。授業が終わった今、この授業で得た知識を使って、一度読んでみたいと思います。

・「忠」「恕」「仁」「礼」が密接に関係し、それらは政治に繋がっていることに驚いた。道德書ではなく政治指南書であることが分かった。

・授業を受けた後、弟子の中で子貢の存在が際立っていることが分かり、『論語』に興味湧いた。教育者としての孔子に着目して『論語』を讀んでみると面白いと思った。

7 授業の形態全般について、あなたの感想を述べて下さい。

・対面授業なので、グループ毎の活動や話し合いがもったしたかった。(この意見は他にも8名)

・資料で配付された現代語訳が難しかった。

・現代語訳が文庫本の解釈と異なっている場合は、どちらの解釈が正しいのか、良く分からなかった。

・提示された章から何が読み取れるか考えることはとても面白かった。対面授業の方が私には合っていると思った。

・授業後に先生に質問でき、丁寧に対応してもらえたので、授業に大変興味を持てた。

・遠隔非同期型の授業と比べると、対面授業の方

が先生の顔や周りの顔を見ることができるので、授業について行くことができているかが分かる。

・私は遠隔非同期型の授業の方が良かった。「古典概説」の時の先生のフィードバックが良かった。

・遠隔非同期型の授業の方が好きな時間に取り組めるので良かった。

(『論語』に対する感想もありましたが、形態についてなので略)

#### 4、まとめ

1～5の結果を見ると、教員の対応や授業の進行については、それほど不満はなかったのではないと思われる。

6の回答については、全員が丁寧な回答をしていた。授業の目的である孔子の実像と『論語』の実態を理解することについては、おおよそ達成できていたのでは無いかと思われる。現代に浸透している孔子像は実際の孔子像から乖離している。資料を讀解し、テーマを考察することでそのことを認識・理解できたことが窺える。

7の授業形態については、コロナの感染予防のため仕方の無いところもあるが、次回はグループワークをなるべく取り入れたいと考えている。また、配付資料についても、詳しい解説を心がけたいと考えている。対面授業が続くであろうが、改善できることは改善していきたい。

一方、遠隔非同期型の授業も学生によっては有益であるとも考えている。軒並み全ての授業を対面にするよりは、遠隔非同期型でも問題の無い授業は、遠隔非同期型でも良いのではないだろうか。教員も学生もより良い環境で授業を行うことができれば良いと思う。